夕刊
磐城新聞
十一月三十日發行
定價 一ヶ月金六拾錢（郵稅共）一部金五錢
廣告料 普通欄一行金六拾錢 特等欄一行金九拾錢（五號十二字詰）
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）

爐邊雜筆（2）

島田忠夫

○今井女史に招かれて

十一月七日、今井邦子女史に招待された

いま、私の携はつてゐる生方たつゑさんの歌集『山花集』の編さん慰勞と、顏つなぎといふ主意であつた

×

招かれたのは、私のほかに生方たつゑさんと、紫式部學會の山口住朋氏であつた

午前十一時であつたが、朝少し來客があつたりして自動車で驅けつけたのは、十一時十分も過ぎたらうか？ 時間のやかましい女史だけに、早速一本やられて了つた

恰度、詩人の中西悟堂氏が、玄關にゐて、階下の洋間へ通された

×

私は二階の日本間である

この室は、私が平にゐて、愚庵の調べものをしてゐる頃、その報告ながら上京して長々と話した所だ

床のわきに、達磨の玩具が、およそ千に近く竝べてある。これは、夫君の今井健彥氏（政友會代議士、前商工參與官）の蒐集ださうな。ころんでも、起き上るといふので、集めてゐるうち、地盤の人々や、所々方々からの寄贈で、今ではちよつと置き場所にも困るとのことであつた

×

生方たつゑ夫人が來てゐた。群馬縣沼田町から、その朝、出て來られたのである。生方たつゑさんの夫君も、政友會の代議士をされた方で、今は休んでゐるのかどうか？ それを私は詳しく知らぬ

日本女子大學の英文科の出身、まだ若い、美しい人である。私は初對面で、今井女史を通して、生方さんのお歌こそは拜見してゐるが、この日た會ひして、案外お若いのに驚いた。まさに麗人であらう

×

紫式部學會の山口住朋氏は、一ばん遲れて來た。今井女史に、同じくやりこめられた

さて、茶菓に次いで、山海の珍味が運ばれた。つぐみ燒も珍らしいもの。それにフランス製の上等な白葡萄酒が注がれた

四人で、生方たつゑさんの『山花集』を祝し、乾杯した。ほんのり頰を染めた今井邦子女史も、また世に稀な麗人であられる

×

この日のことは、私が文人として、招待された最初のものかも知れん。今までいろ\/\名士に知られ、招待をうけても、文學上のことよりは、私交上のことが多かつた。確かに、私には記憶すべき日だ

×

いろ\/\な話が出た。私は愚庵のこと、平町を話し五浦や大津、平潟、それから小名濱、四つ倉などの風光を宣傳した。闘南の湯へ是非行きませうと、今井女子が約された

平町へ女子をつれて、一度行きたいと私は思つてゐる。磐城高女のある舊城趾などは、女史の最も欣ぶ風光であらう。中憩するには木兎莊の一室を藉りたいものだ、などゝ思ひながら食後の菓物、アレキサンドレヤを頂いて、午後二時に辭した（十一月二十四日記）

磐城歌壇

新妻久滿男選

『秋五題』　川越市　加藤純弘

○暴風後の庭は淋しも亂れ伏す萩の葉かげにこほろぎのなく

◎暴風あとの落葉ゆ、しき庭すみに白萩は今朝咲き初めにけり

○雨止みて碧く澄みたる中空に折々白き雲の飛ぶ見ゆ

○ながら降る雨の霽れ間にほの匂ふ木犀の花は秋の香りか

○乳戀ひて啼く仔犬らし雨の音に眠覺めて聽けば悲しき聲す

小評　第一首別に大した難もなくまとまりを見せてゐるが淋しさを詠んでそれがひし\/\と心に感じられないのは概念的に歌はれた故であらうか。これから見るといふと第二首は佳い歌である。次の『雨止みて』も説明された通りの歌である。第四首『ながら降る』の詩嘆は受けられる。

ひとり言

井東憲

——一樣

盛夏だといふのに、まるで秋のやうな雨が降つてゐます

昨夜例の如く、銀座から醉ぱらつて歸る時、鶯谷のカードの下で、小便をしながら、一句馱句つたのでした。古い句です

夏雨や鐵道草の盛りけり

この間の、しらふた眞夜中にふと浮んだ

虫啼くや破れし戀の夢の跡

よりは、やゝ落着いてゐると思ひませんか

今日、ベランダのそばのガラス障子に、鼻を押しつけるやうにして、若桐の脊梁を愛撫する雨を眺めてゐますと、どこかゝらブンといふ健くさい匂ひがたゞよつてきました。いつか上海の支那宿で嗅いだ匂ひですはてな、と思つてあたりを見廻したが、それらしい原因が見當りません。よく考へると、自分の垢じみた寢卷の惡臭でした

ひとり者の淋しさよ

——一樣

わびしいので、臺灣の旅行記を讀み返して見ました俳句でも、詩でもなく、こんな事が澤山書いてあります

小さな街、細雨の中の水牛鷺鳥夫婦

眞暗な泥の家の中に白衣うごめく

甃だゝみ縫ひ縫ひて赤レンガの街に入る

雨雨、想思樹の下の白さぎ

見渡す限りの草原の眞紅の花々

眞赤な土の水たまり紅のやうに赤い

木麻黃の竝木しとやかにゆれゆれて

どうした譯かこの醉どれに長崎女給のラブレター

蕃女美しく歸りたくない心

四十過ぎれば酒びたり若書類使が成功といふか

◇……◇……◈

潮聲硯靜抄帳

枯柳　席上互選

柳枯れて白壁しるき校舍かな　松堂

夕月のほのかに出でゝ枯柳　素風

水の面に横りたる枯柳

街路に名ある銀座や枯柳　素秋

夕陽さす易者の顏や枯柳　文狂

牛めしの障子新らし枯柳　石城

朝霧の詩

奈良　辰巳和子

摘捨ての秋草の
しつぼり露に濡れて居た
朝霧の流れて居た高原の小徑
龍膽を求めにとさまよい出し朝の小徑に
求むる花は無くて
霧の底に浮びしは　一面の一面の
紫の野菊の花
そを胸に抱けば　霧のごと流るゝ
うす紫の香ありけり
高原の霧は冷たし　しめやかに
流れ流れて　現つ身の心を冷やす
冷え\/\と野にくだる一筋の道
流るる霧頰に感じつゝ
しばし朝霧佇めば
野の果ても見え分かずなりぬ
穗すゝきはゆれ\/\としつ
其の果てに霧あるのみ
いづこに續く道とも知らず
胸に抱きし
紫の香に埋もれ
朝霧に立ちつくす心に
やがてしめやかに歌ごころ流れて
朝霧の詩湧き來る

過織田信孝墓

珠雲　小野務中

未慰父兄地下眠
時非自決事堪憐
撫碑小立增長歎
一去忽々四百年

その日\/\

12月1日　△幕府始て天文方を設く（貞享元）△湯島聖堂幕府の學問所となる（寬政九）△樽前山噴火△磐炭綴新斜坑起工式（昭和八）△常磐線列車時刻改正（同九）

12月2日　△細川忠興卒去△澤庵和尚入寂（正保二）△米國モンロー主義宣言（一、八二三）△日米覺書公布（明治四一）△植田町長等石川行省營バス上京陳情（昭和九）

○　いよ\/\あすから師走の月——。常住座臥、なんとなく心せわしくなつた

講談　黃金魔刄

（17）高桑義生作　樋口悅也畫

雁の旅（八）

群藏が繩をたぐり寄せる

辰巳屋は苦もなくズル\/\と引かれて來た

『しめたッ』

と飯野左傳次が、飛びかゝつて、辰巳屋を取押へようとした瞬間、辰巳屋は燕がへしにクルリと一轉した

そして滿身の氣合、拔討ちに群藏の手もとに斬りつけた

『あッ！』

群藏が繩をはなす。繩はクルクルと辰巳屋の體にからみついた

『うぬッ！』

といふと、原地十郎、飯野左傳次の二人は、すばやく腰の刀を拔いた

辰巳屋は繩にからませたまゝ、白刄をひつさげて、タッ\/\と走り出した。十郎左傳次は追ひ驅ける

一本松、辰巳屋はそこでクルリと振返つて

『やい、手前達おれをどうする氣だ』

『町人ッ』

と十郎は刀をつけて叫んだ

『昨日からの怪しき振舞、取り押へて吟味の筋があるのだ。おとなしく縛につくか、さもなくば、貴樣の命を貰ふがどうだ』

『何をいやあがる。手前達の居候侍のなまくら刀に、斬られる樣なお兄哥樣ぢやねえんだ。投繩とは氣がつかなかつたが、今の腕前見たか』

『うぬッしれものッ』

左傳次が斬りつけた。辰巳屋はサッとかわした

『おッとどつこいさうは行かねえ』

辰巳屋は餘裕を見せて

『やい、居候侍、金持のごますり侍、へん、吟味の筋だつて、怪しい者だつて、ばかにするねえ。役人でもねえ手前達におとなしく縛られる奴が何處にある。つまらねえ眞似をしやがつて今にほえ面かくなよ。あッはッは……』

とたんにバラ\/\と石の雨。島原屋の手代四人が、助勢のつもりで投げるのだ

『やッ飛道具、こりやアいけねえ』

辰巳屋は大仰にいふ。その時

『わいッ！』

一跳足、十郎が大きく拂つた一刀。だが辰巳屋の體はすでに松の木の向うへ飛んでしまつて、走つた

『待てッ』

『のがさぬぞ』

十郎、左傳次、面上に朱をそそいで砂を飛ばして追跡する。そのあとから四人の手代も走る

小者の次郎吉、は以前の場所で傷ついた甲斐瀬群藏の手當をしてゐる。長持をつけた馬は、道ばたでゆう\/\と朝霧深い草をかんでゐた

辰巳屋は迅い。假に逃げおほせる速力だ。しかし彼には下心がある。時々クルリとひつくり返つて挑むやうに罵詈をあびせる、二三合相手になつてはまたトットと逃げて行く

『小癪な——』

十郎、左傳次は釣られるとしらず懸命に追ふ。手代もその通り。背後に何事が起らうと、もはやその距離はズッとはなれてしまつた

まもなく

『ヒーン……』

と一聲、馬が曉の風にいなゝいた

次郎吉はハッとして振返つた

と、道中姿の男が、今しも馬の手綱を取つて走り出すところ

次郎吉は顏色を變へた。群藏はすわと立ち上つた

『曲者ウ……』

馬は走つて。群藏は白布を卷きかけた右手をおさへながら、曲者と馬のあとを追つた

『どろぼうだア』

と次郎吉は思ひ出したやうにわめいた

……◇……

漆器　家具　神佛具　雜貨　文具　裁縫具
至急　・小店員と女中募集
・卸小賣
平町二丁目　近江屋　電話七一一番

友部は皆々樣の株式店です。
株式八一株ヨリ
債券八一枚ヨリ
御下命を願ひます
株式公債現物賣買
友部株式店
平・三丁目　電話一七七

耳鼻咽喉科專門
病室完備　自炊ノ便アリ
平町田町（電六九一）
山内醫院
醫學士　山内亨吉

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

9ミリ半
ポニイ
活動撮影機　¥18.00
活動映寫機　¥17.00
西村屋藥舗
平二・電三

耳鼻咽喉科專門
高柳醫院
平驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需 自炊ノ便アリ）

季節向御料理
毎度格別なる御贔屓に預り難有御禮を申し上ます
弊店獨特の季節向御料理を致しまして此度は純江の島料理を始めました何卒御尊來御試食を賜り度伏して御待ち申上げます。
◎江の島料理
松　珍味江の島鍋共五品 御一人前　金壹圓五十錢
竹　同　金壹圓貳拾錢
梅　同　金壹圓
毎日獻立差替調理致します。
豫て御好評のヒナ鳥
◎水たき
◎鯛茶
御婚禮。忘年會、新年會は特に御相談に應じます。
割烹　住吉屋本店　電一五九番

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
『入院のお需めに應ず』（看護婦及ビ見習看護婦募集）
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
內郷村高坂 磐炭病院前
鈴木醫院

冬晴れの山野に躍る 全郡千百餘の健兒群
けふ青年學校演習蓋あけ
第一夜は玉川、鹿島、小名濱に分宿

郡下青年學校四十七校千八百餘名の生徒その他による聯合演習は愈々今三十日から鹿島、玉川、小名濱方部で開始された、第一日は午前十一時から

△北軍　御齋所街道を前進せる敵を邀擊すべき任務の北軍支隊は濱街道を前進、三十日午前十一時半頃その先頭を小名濱街道分岐點に達し、略々同等の敵が午前十時その先頭小淵を通過北進するを知る

△南軍（白帶）四倉方面より前進せる敵を邀擊すべき任務の南軍支隊は御齋所街道を前進、三十日正午先頭を湯本西端三叉路に達し、略々同等の敵が午前十時その先頭狐塚を通過南進するを知る

なる情況を開始、北軍は鹿島西部藏持附近を占領、南軍は玉川村住吉東部から鹿島村御代北側を占領、午後三時鹿島村船戸、金成の線に遭遇戰を展開、午後四時終了した、同夜は玉川、鹿島、小名濱三校に分宿、既報の如く審判將校から夫々時局講演をきく

教練指導員に感謝狀
開設以來の十四氏に贈る
特別視察員來郡臨席

前記演習に福島聯隊區附藤井中佐、佐藤縣社會教育主事が特別視察のため今三十日來郡、臨席した、又第二日閲兵分列式に於て講話講評後、開設最初の感謝狀を贈られる青訓創設以來の教練指導員は左記十四氏である

勿來―赤津一　小松章　渡邊―高木善枝　泉―齋藤昌孝　志賀繁　佐藤源一郎　好間第一―園部貞一　内鄕―大橋貞勝　平―藤田榮助　桶賣―大平七藏　大浦―早川雅偉　―差塩松崎保房　下三坂―伊藤務

第二日目 霜白き曉天六時 全軍出動開始
前十一時小名濱で分列式

第二日明一日は午前六時から

△西軍（第一日の北軍）二三日前より江名沿岸に上陸した敵の一部は三十日小名濱東北側高地から小名濱北端同西端の線に陣地を占領、之を邀擊すべき目的の西軍支隊は石川方面より前進、敵主力の小名濱附近進出に先立ち三十日夕刻以來攻擊を開始、敵警戒陣地を奪取の上一日午前四時頃玉川村岸、原木田、前原堤防の線に進出し攻擊を準備中午前八時攻擊準備完了、砲聲を聞きつゝ攻擊命令を待ちつゝあり

△東軍（白帶）（第一日南軍）石川方面より前進する敵に對し小名濱附近に進出東軍主力の江名沿岸上陸を掩護すべき任務の東軍先遣支隊は三十日陣地占領、同夕刻以來砲十數門を有する敵の攻擊を受け警戒線を拋棄の已むなきに至り陣地補强に努め敵は小名濱―大原道前後に有力の二大隊を展開、岡小名、原木田堤防に布

る

提灯かざして 町民は歡喜する
來月四日夜奉祝行列

新皇男子樣の御降誕を奉祝する平町の提灯行列は昨報の如く御命名式當日午後五時半役場前集合、莊嚴な樂の音を先頭に六時から町内を一巡、縣社下で萬歲三唱解散する豫定だが提灯行列の外に各種の思考を望むと

平町新風景
第四校と大競技場 來る十三年度に完成
關係地主の半數纏まる

平町百年の大計たる市制施行と共に計劃されてゐる稅務署南田圃字三崎、菱川地內の第四小學校建設敷地約八千坪及これに附隨の町營グラウンド敷地約一萬坪の買收交涉は目下委員十一名が分擔して關係地主諸橋久太郎氏外二十一名に對し契約金百圓拂込みにより折衝中であるがはや半數以上の承諾を得て順調に進捗してゐる

町では來年度豫算に買收費總額を計上、同年末迄に全地主の承諾を得翌十二年度一杯に埋立をすまして愈々十三年度にはモダン二階建の校舍と廣大なグラウンドを實現せしむるものでこれが設備等も近く本格的に計劃されるものと見られてゐる

平窪、神谷兩村共 可否決定未だし
平町の市制と隣村の動き

平町隣接五ヶ村合併中最安易村と見られてゐた平窪村では昨二十九日村會を開き協議案の形で合併の可否檢討したが戶數割其他の問題がある處から遂に決定に至らず近く村民の意向をも確めた上左右を決する事になつたが草野村長は『未だ研究の餘地もあるが大体合併の空氣にはなつてゐる』と語つてゐた

尙來月二日第一回交涉を行ふ神谷村でも昨二十九日村會で協議したが贊否兩論に分れて決定迄にはなほ日子を要するものと見られてゐる

。。。。。。四倉信用組合總會。。。。。　三十日午後一時から小學校に開き現組合長吉田彌太郎氏以下任期滿了の役員改選を行ふ

江筋橋附近に建柵

平驛東方愛谷江筋にかゝる鐵橋附近は夏季中水遊びの子供等で雜踏し線路を越ゆる等の危險も伴ふので驛では同附近約四十米に亙り危險除去の柵をゆつた

佐藤代議士 明一日歸平
同夜第三で講演會

萬國議員並に商事會議に臨み歐米視察を終へて歸朝した佐藤庄太郎代議士は明一日午後七時四十二分で歸平す筈であつたが豫定を早めて同日午後四時三十分着で歸平、直に同夜七時から平第三校講堂で開かれる歐米視察講演會に臨む筈、尙

尊き國の鎭め 勇ましく鹿島立ち
けさ平驛頭の賑ひ

驛頭に入營兵を送る。時はまさに所謂非常時である丈けに一しほ勇壯に見ゆると云ふものゝけふ霜寒の朝まだき村人多數に送られて各最寄驛に集つた入營兵は郡下を通じて朝鮮羅南第七十三聯隊入り四十六名、同七十六聯隊四十名、近衛二聯隊十六名、合計百二名之等は何れも國の鎭めたる矜持と感激と興奮に双頰を紅潮させ、步廊をゆるがす萬歲聲裡に勇ましく鹿島立つた、やまと男の子の前途に祝福あれ

歡送二千人
稀有の入場券賣上

平町出身で朝鮮十九師團入營の八君は非常時を双肩に荷ひ劉喨たる喇叭と翩飜たる歡送旗の波に渦卷く歡呼に送られ平驛を出發したがこれによつて驛の入場券は今日に廿倍する二千枚にも達したので係員も汗ダクの態であつた

性病を悲觀か？ 妙齡の女首を縊る
昨朝湯本の山中で發見

湯本町字湯本山神地內の杉林中に二十九日午前十時頃妙齡の女が縊死してゐるを發見、平署の檢視の結果により右は同町字入山上町住宅入山炭礦坑夫榊原富治方工藤文子(二二)で死因は不明、數日前北海道十勝國足寄郡陸別村の鄕里から前記富治の妻になつてゐる姉を賴つて來たが性病を苦にした極度の神經衰弱の結果らしい

驛前の時計泥
懲役三年の判決

住居不定無職竊盜前科三犯茨城縣眞壁郡下館町生れ岡野竹夫(二四)が去る十八日午後六時半頃平町三丁目星野時計店方店先から時計類見本在中の赤皮製手提鞄を掻つ拂ひ間もなく逮捕された事件は今三十日午前十時から平區で香西判事係り淸田檢事關與公判開廷、求刑通り懲役三年を言渡された

不審な手紙
前借の娘に
周旋人の仕業か

湯本町入山四坑々夫齋藤平吉長女セツ(一五)は去る八月二十一日高木數の世話で東京市本所區兩國小林喜代方に前借三十圓で女中に住込んだ處最近平吉の家に病人が出來た爲現金三十圓必要だが出來なければ娘を返してくれと發信人不明の手紙が小林方に來たが腑に落ちぬ處があるので小林から平署に調査方を依賴して來たが或は周旋人の仕業でないかと

了の豫定であると

小學教員籠卓球會

縣体育協會石城支部主催の郡內小學教員籠球大會は來月十五日午前九時から平第一、同第二の兩コートに於て、又同女教員卓球大會は同日同時刻より第一校講堂で開催に決定した

健康强調 今日から週間

平署では今三十日からの健康週間に際し明一日朝來自動車に分乘管內全般に亙りビラ數萬枚を撒布する、平町でも片倉製糸、三小學校中學校、女學校、平商等で衞生講話を行ふが週間中左記諸施設により趣旨の普及に努めると

△產婆會で期間中姙產婦の無料診察　△看護婦會は至急の場合救護班を派遣　△湯屋組合で体溫計及體重計を備へ体重性別年令等の取纏め　△衞生組合は下水小溝の浚渫及ポスター貼付

平鐵竹由會 三曲演奏會

平鐵竹由會主催の第三回三曲演奏會は明一日午後一時から同俱樂部で開く、プロ左の如し

（晝の部）八千代獅子　落梅　秋の言葉　螢　三つの景色　松風　楫枕六段　蝶の夢　若菜

（夜の部）松上の鶴　里の曉　千鳥の曲　四季の眺　臼の聲　夕顏　秋の曲　鐘が岬　松竹梅

。。。。。山田農產品評會。。。。。　來月十三日から三日間同村小學校及信用組合で開く、郡農會柴田技手出張

町村農事指導者常設
近く全郡に普及して今後の改善期待さる

縣並に縣農會では地方產業町村の振興及び農村經濟更生の促進機關として縣下各町村に專任或は兼任農業技術員を駐在せしめこれに對し縣では二割の補助費を交附してゐるが兩々捗々しく行はれず現在未設置町村は實に百五十ケ町村の多きに達してをり、そのため充分防止し得べき凶作並に病虫害を初め諸般の施設も各系統農會及駐在擔任技術員との連絡指導の中斷乃至は不徹底となり勝ちの爲適當に行はれずみす〳〵損害を崇ることが少くない即ち凶作防止農村振興の先驅ともなるべき町村技術員の設置は刻下農村の急務であるとなし二十九日縣農會では縣下百五十技術員未設置町村に對し嚴重警告を發して促進を慫慂することになつた

郡內の未設置町村は安達の二十ケ町村に次ぎ十七ケ町村（郡內四十ケ町村の四割二分五厘）の多きに上つてゐるがこれにより漸次普及されるものと見られてゐる

平町陪審員候補者決定

平町では昨二十九日陪審員候補者抽籤の結果左記十三氏當選

柏原義一　猪狩庄平　里見鐵太郎　根本一馬　小山田吉治　山部政治　森川來一郎　三森巳之松　鈴木彌太郎　鈴木留五郎　林秀壽　橫山萬藏　鈴木藤一

。。。。魚商に說諭願。。。。　上小川村大字上平魚行商猪狩寅吉は去る五月廿四日四倉町字堺川魚商根本金太郎方に至り御祝儀用の鮮魚十三圓三十錢分を借り再三の督促にも應じないので根本から平署に說諭願

小名濱の準强盜 豫審決定
平支部の公判に附さる

住居不定無職相馬郡高平村大字北高平生れ末永開事千尋庄八(四八)に係る準强盜事件は過般來平支部關口豫審判事係り審理中今三十日終結決定、同支部の公判に附された

同人は去る九月二十六日午後十一時頃小名濱町古港四七呉服雜貨商志賀淸次郎方に忍入り店先の金錢登錄器から五十錢を竊取し程經て再び忍込み金品を物色中淸次郎及び同人妻ムメに發見されるや土間から下駄を拾つて毆り付け淸次郎の下頭部その他に傷害を與へたものである

。。。。山崎氏へ謝狀。。。。　平町山崎淸三氏は先頃郡聯合鄕軍分會へ事業資金として金五十圓を寄附したが此程鈴木會長から木杯並に感謝狀を贈られた

一日（小名濱測候所調査）
日出 六、二七　月出前 一〇、三三
日沒 四、二四　月沒後 九、二四
滿潮 前 八、二五　後 六、一五
干潮 前 一、〇〇　後 一、〇五

二日
日出 六、二八　月出前 一一、〇七
日沒 四、二四　月沒後 一〇、三二
滿潮 前 九、　後 七、二〇
干潮 前 一、〇五　後 二、〇五

新十二月一日 日曜　辛亥　佛滅　建　昴宿　舊十一月六日

昭和定曆　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　ちうちよせず目的に進まるべし大事なも通達す▲二黑　梁り氣となりて手を引き離き破目となる日▲三碧　內外の交りを深かめ家道の榮達を期すべし▲四綠　輕卒に物事を處理し損害を誘發する不安日▲五黃　物事遲たい勝ちなる日緊張して事を處すべし▲六白　希望のみ大にして實力之れに伴はず後悔す▲七赤　そご多くして窮乏に陷る凶惡の日病難注意▲八白　引くに引かれぬうきめを見る日失敗るい積す▲九紫　大望を起さゞれば安全定業に依り利得多し

新十二月二日 月曜　壬子　大安　除　畢宿　舊十一月七日

▲一白　連戰連勝の大吉日危險に望むも恐るゝ勿れ▲二黑　消極的態度に依りて災禍を未然に防ぐべし▲三碧　つり落したる魚の大きかりし如し普請赤凶▲四綠　一旦の利あらば退きて他日に出直るべき日▲五黃　つえを見失ひしめくらの如く惑ひ多かるべし▲六白　はんもんのみ起りて不快に過ごすべき日病注意▲七赤　親和失はれ反感を生じ易き日融合を旨とす▲八白　意外の出來事にばたんかんとする凶惡日▲九紫　物事に中折れを生ぜんとす勢に乘れば大凶

廣告

七五三用品　ヤルツ

磐城名物　靈峰羊羹　小川鄕驛前　平屋賣店

平町六丁目　木村外科醫院　電話三〇九番

祝七五三　贈品　鰹節　魚問屋　平町四丁目　電二一二

七五三お祝…　お子樣洋品
可愛いゝお子樣の洋服・オーバー・セーター・スーツ
帽子・兎ショール・皮靴・手袋・靴下・シャツ…等々
常に新型・豊富な良品で評判の
中野洋品店　平二三　電五三

祝七五三
御寫し遊ばせ お子樣方の可愛い御姿を 御寫眞に！
當日は御祝として燒増を壹枚御進呈いたします
平町寫眞師組合
組合員名（いろは順）
林寫眞館　戶田寫眞館　岡山寫眞館　大野寫眞館　太陽寫眞館　中島寫眞館　ライト寫眞館　青木寫眞館　アサヒ寫眞館　齊藤寫眞館　サクラ寫眞館　三光館スタヂオ

耳鼻咽喉科專門　大和田醫院　（入院隨意 病室完備）　平町南町一六番地　電一七〇番

產婦人科　外科　藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　玄番彌一
入院隨意　病室完備
平町新川町十九番地　木村病院　電話一六四番